



消防ポンプを利用したいぼり
(兵庫県淡路市 地藏堂上池)



シナイモツゴの放流
(宮城県大崎市 旧品井沼周辺ため池群)



オニバス
(香川県善通寺市 前池)



生態系に係る説明看板
(青森県青森市 又八沼)



水土里ネットによる堤体補修の助言
(島根県松江市 廻池)



リモコン草刈機によるため池周辺の草刈
(岡山県岡山市 谷尻下池)

地域の共同活動を軸とした農業用ため池の 管理・保全の取組事例集

令和7年3月
農林水産省

まえがき

本事例集の趣旨

各地域において、今後も農業用ため池の適正な管理・保全活動を維持、継続していくため、各都道府県における様々な管理・保全の活動事例を事例集として取りまとめました。

本事例集には、多面的機能支払の活動組織(多面組織)による管理・保全の事例を中心に、農業関係者以外の団体等とともに活動を実施している事例等について掲載しています。

各地域において、本事例集を参考に今後の適正な管理・保全の取組を検討、実施していただくようお願いいたします。

本事例集に関するお問合せはこちら

農林水産省 農村振興局 防災課 防災・減災対策室

代表：03-3502-8111（内線5661）

ダイヤルイン：03-3502-6361

農業用ため池の管理及び保全に関する資料はこちら

[ため池管理保全法に関するHP](#)

ため池管理保全法の条文、法律概要、法律に基づく取組状況等を掲載しています。



[ため池管理マニュアル](#)

日常管理のポイント、点検チェックシート等を紹介しています。



目次

地域住民との連携	地域住民の理解の促進	安全対策	生態系保全	環境教育	防災・減災対策	多面的機能支払交付金活用の有無	市町村	タイトル	ページ
○	○		○	○			青森県青森市	水抜きによる外来種駆除と在来種保全	1
○			○				宮城県栗原市	ほ場整備を契機とした団体設立によるため池の生態系保全	2
○			○	○			宮城県大崎市	地域ぐるみの外来種防除による生態系保全	3
○		○	○	○	○	○	群馬県前橋市	かいぼりによる生き物調査と外来種駆除を通じた生態系保全	4
○		○			○	○	新潟県十日町市	管理用通路の造成による維持管理負担の軽減	5
○	○		○	○	○		石川県珠洲市	アメリカザリガニ防除の環境学習を通じた生態系保全	6
○				○		○	福井県福井市	ため池と農村公園の保全を通じた地域住民との交流	7
○	○			○		○	兵庫県明石市	都市部ため池周辺の住民・小学校と連携した保全	8
○				○		○	兵庫県加古川市	ため池をきっかけとした地域の活性化	9
○						○	兵庫県加古川市	中間管理機構との連携の推進	10
○			○			○	兵庫県高砂市	ため池の管理保全と一体となった農振農用地区域外における取組	11
○	○						兵庫県淡路市	農業者と漁業者のかいぼり活動による里海の保全	12
○		○			○	○	岡山県岡山市	リモコン式草刈機の導入による管理保全の効率化と安全確保	13
○					○	○	岡山県井原市	ため池の水位調整等による防災・減災対策	14
○		○				○	香川県高松市	ため池での作業安全対策	15
○					○	○	宮崎県宮崎市	地域住民が参加しやすいため池の管理保全活動による防災・減災対策の取組	16

水抜きによる外来種駆除と在来種保全

経緯・きっかけ

- 青森市指定文化財であるシナイモツゴが生息する又八堤から、令和2年の生息調査において、青森県には自然分布しないモツゴを確認。
- モツゴは絶滅危惧種であるシナイモツゴの生息を脅かすため、シナイモツゴ及び在来種を採集して一時避難させた上で、池干しを実施してモツゴを駆除。
- 水位回復の後、一時避難させたシナイモツゴ及び在来種を放流し、生態系を保全。

活動主体の概要

- シナイモツゴを守る会（青森県青森市）
（又八沼でのシナイモツゴの保護活動を目的に、地域住民を中心に平成12年結成。）

ため池の諸元

名称： <small>またはちつつみ</small> 又八堤	所在地：青森県青森市大字羽白
所有者：青森市	堤高：2.5m
管理者：個人	堤頂長：50m
受益面積：3ha	総貯水量：960m ³



保全・管理の取組内容

■取組の体制と内容

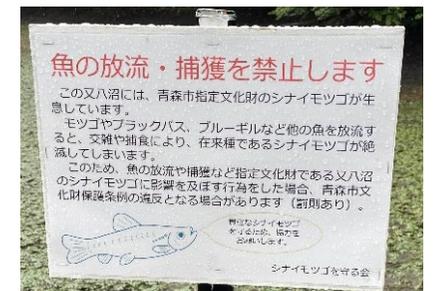
- ・絶滅危惧種であるシナイモツゴ等を一時避難させた上で、シナイモツゴの生育に悪影響を与えるモツゴ※1を駆除するために水抜きを実施。
- ・駆除確認後、再度湛水してからシナイモツゴ等の在来種をため池に放流し、生態系を保全。
- ・地域住民や小中高生を対象に環境学習会を実施。
- ・水抜き時には地元高校生、大学生も参画。
- ・採取した在来種の一部は小学校で飼育し、環境学習の教材として活用。
- ・予算は、公益財団法人青森学術文化振興財団からの助成金を活用。
- ・ため池管理者が、堤体法面や堤体周辺の草刈りを年2回（春と秋）実施。
- ・ため池管理者が、大雨時前後のため池の見回りも実施。

■取組の効果

- ・看板の設置や環境学習会の実施により、魚の放流による悪影響等についての地域住民等の理解の醸成を促進。



又八堤に生息するモツゴ（左）とシナイモツゴ（右）



放流禁止の看板

※1 モツゴがシナイモツゴの生息地に侵入すると、シナイモツゴとの交雑により繁殖能力のない雑種が生じ、数年後にはシナイモツゴからモツゴに置き換わるため、モツゴはシナイモツゴの存続を脅かす要因であることが知られている。

活動状況



環境学習会



又八沼から生物の採集

ほ場整備を契機とした団体設立によるため池の生態系保全

経緯・きっかけ

- ため池に外来種のおオクチバスが放流されて釣り人の増加がした結果、ゴミの投棄等により管理や用水供給に支障が発生。
- ほ場整備事業の実施を契機に、自然生態系の復元等を目指して環境保全団体「ナマズのがっこう」を設立。
- 在来魚のフナやヌマエビの復元のため、池干しによる外来種駆除を実施し、ため池の生態系を保全。

活動主体の概要

- ナマズのがっこう（宮城県栗原市）
（経営体育成基盤整備事業（飯島地区）の実施を契機に平成15年設立。地域住民、土地改良区職員、民間企業職員等約30人で構成。農業と自然環境の共生を図る取組を実施。）

ため池の諸元

名称： ^{やさわ} 八沢ため池（防災重点農業用ため池）	
所在地：宮城県栗原市築館字大深沢	
所有者：栗原市	堤高：8.1m
管理者：八沢水利組合	堤頂長：153m
受益面積：60ha	総貯水量：74千m ³



保全・管理の取組内容

■取組の体制と内容

- ・在来魚やエビ、水生昆虫を捕食する外来種おオクチバスの駆除のため、伊豆沼・内沼環境保全財団^{※1}やバス・バスターズ^{※2}と連携し、池干しを複数回実施。
- ・おオクチバスの完全駆除を確認後、ゼニタナゴ、シナイモツゴ、ヌカエビを放流し、在来魚を保全。
- ・伊豆沼、内沼のおオクチバス駆除には、上流域のため池に生息するおオクチバスの駆除も必要なので、各団体が連携して実施。
- ・ため池管理者が堤体法面や堤体周辺の草刈りを年1回程度実施、かんがい期には、ため池施設を月1回点検、そのほか、大雨前の事前放流、大雨前後の見回りを実施。



ゼニタナゴとシナイモツゴ

※1 宮城県栗原市に位置する伊豆沼・内沼の自然環境を調査・研究、保全活動を行う環境財団。

※2 おオクチバス等の駆除を行うボランティア団体。

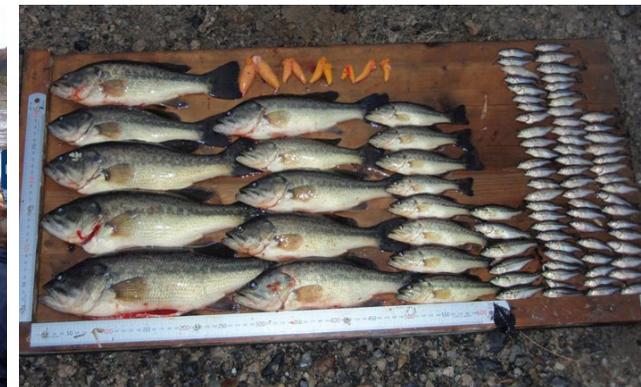
■取組の効果

- ・池干しにより、普段は見られない堤体法面の状態を確認。
- ・おオクチバスの完全駆除により釣り人が減少し、ゴミの投棄等による用水供給の支障が解決。
- ・在来種であるゼニタナゴの稚魚の生息が確認されるなど、ため池の生態系を保全。

取組状況



おオクチバス除去



捕獲したおオクチバス

地域ぐるみの外来種防除による生態系保全

経緯・きっかけ

- 絶滅危惧種であるシナイモツゴは、宮城県大崎市にかつて存在した品井沼に由来。
- 品井沼が干拓された後も、旧品井沼周辺ため池群にシナイモツゴをはじめとした希少生物を確認※1。
- 平成8年頃、ため池にブラックバスやアメリカザリガニが増殖し、シナイモツゴの生息環境が悪化。
- このため、独自の装置を用いた外来種駆除やシナイモツゴの稚魚の放流を行い、生態系を保全。 ※1 地域住民が品井沼の魚類を周辺のため池に毎年放流し、晩秋に池干しをすることで冬季の食料を確保していた。

活動主体の概要

- シナイモツゴ郷の会（宮城県大崎市）
（シナイモツゴの保全のため、池干しによる外来種駆除、シナイモツゴの放流、環境保全活動、勉強会の開催等を行う。環境省の里山未来拠点形成支援事業の予算を活用。）

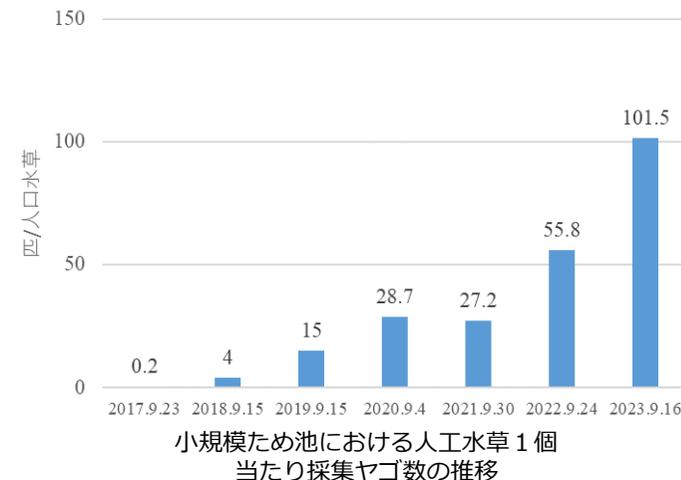
ため池の諸元

名称： <small>かつらさわためいけ</small> 桂沢溜池	所在地：宮城県大崎市鹿島台
所有者：大崎市	
管理者：大崎市	
堤高：7.8m	
堤頂長：93m	
受益面積：15ha	
総貯水量：15千m ³	

保全・管理の取組内容

■取組の体制と内容

- ・行政区、水利組合等が堤体周辺の草刈りを年4回程度実施。
- ・ため池管理者が、大雨前の事前放流、大雨前後の見回り
- ・大崎市は生態系保全の啓発活動や調査への支援を行い、地元行政区は地域住民との調整を実施。
- ・池干しによりブラックバスを駆除した後地元小学校で育てたシナイモツゴの稚魚をため池に放流。
- ・独自の捕獲装置でアメリカザリガニを駆除し、低密度管理を実施。
- ・地元の南郷高校や東北生活文化大学は、捕獲したアメリカザリガニを用いた料理を中華料理店と共同で試験販売。
- ・シナイモツゴ郷の米づくり手の会は、旧品井沼ため池群の用水を活用したブランド米の生産・販売。
- ・他のため池でも導入できるように、取組について積極的に情報発信するとともに、支援の輪を拡大。
- ・令和6年3月、環境省は旧品井沼周辺ため池群を「自然共生サイト※2」として認定。



■取組の効果

- ・絶滅危惧種であるシナイモツゴが順調に生育。
- ・アメリカザリガニの低密度化でヤゴの生育数が増加。

※2 民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域

活動状況



シナイモツゴ郷の米づくり手の会が池干しによりブラックバスを退治



バス退治したため池へ里親たちが育てたシナイモツゴを放流



2019年開発の新型連続捕獲装置だれでも、どこでも大量捕獲できるようになった！特許取得
新開発の連続捕獲装置でアメリカザリガニを簡単に大量捕獲

かいぼりによる生き物調査と外来種駆除を通じた生態系保全

経緯・きっかけ

- ため池でのコイの養殖終了を受け、多面組織の役員会において、ため池の水を抜いて生態系調査の実施が提案され、毎年11月に実施することで合意。
- 育成会※との連携により、子どもがため池の生き物を手に取って学ぶ機会を創出。

※子ども会の活動を援助する組織

活動主体の概要

- ため池親水公園愛護会（群馬県前橋市）
（江木町水利組合の愛称。組合理事、自治会理事等30人で構成）
- 江木町谷地沼グリーンクラブ（多面組織）

ため池の諸元

名称：谷地沼（防災重点農業用ため池） <small>やちぬま</small>	
所在地：群馬県前橋市江木町	
所有者：前橋市	堤高：5.9m
管理者：江木町水利組合 （ため池親水公園愛護会）	堤頂長：139m
受益面積：5ha	総貯水量：42千m ³



保全・管理の取組内容

■取組の体制と内容

- ・県からの打診により、多面組織設立時から活動対象の一つに谷地沼を位置付け。
 - ・前橋市もため池親水公園愛護会に対して年間数万円を補助。
 - ・江木町谷地沼グリーンクラブは、4月にマスを放流。11月に池干しと草刈りを行い、マスの成長調査や生態系調査を実施するとともに、草刈り参加者に捕獲したマスを配布。
- ＜江木町谷地沼グリーンクラブが行っていること＞
- ・初回の生態系調査において外来種を確認したことから、外来種駆除のためにその後も継続して池干しを実施。
 - ・生き物調査は江木町谷地沼グリーンクラブが主体となって実施。
- ＜ため池親水公園愛護会が行っていること＞
- ・余水吐きのゴミ取り、転落防止柵（間伐材及び擬木）の安全点検、斜樋、底樋の操作確認等の日常管理はため池親水公園愛護会が実施。
 - ・堤体法面や堤体周辺の草刈りを年7回程度実施。
 - ・ため池施設の日常点検を年12回実施。

■取組の効果

- ・生き物調査により確認された外来種を駆除することで、生態系を保全。
- ・定期的にため池の水抜きを実施しているため、土砂堆積がなくなり底樋ゲート操作が容易に。
- ・多面組織による活動で植栽等の景観形成も行い、地域に親しまれる親水公園に。

取組状況



池干しで獲れた魚を子どもが観察



植栽活動の様子

管理用通路の造成による維持管理負担の軽減

経緯・きっかけ

- ため池の機能診断において堤体からの漏水を確認したため、県営事業でため池堤体の補強工事を実施。
- 補強工事においてため池の水を抜く機会を活用し、多面組織がため池に堆積した土砂を浚渫するとともに、ため池の周囲に管理用通路を造成。

多面組織の概要

組織名称：下原地区環境保全会
(新潟県十日町市)

活動面積：35ha

対象施設：開水路5.4km、ため池2か所等

構成員：農業者、水利組合、自治会

主な活動：ため池等の草刈り、水路の補修等

ため池の諸元

名称：新開堤（防災重点農業用ため池）	
所在地：新潟県十日町市仁田	
所有者及び管理者：川西土地改良区	
堤高：8.5m	堤頂長：84.8m
受益面積：40ha	総貯水量：20千m ³



保全・管理の取組内容

■取組の体制と内容

- ・県営事業におけるため池堤体の補強工事に当たり、ため池の水抜きを実施。
- ・ため池の周囲は通路がなかったため、工事を契機に、下原地区環境保全会の副会長（川西土地改良区理事長）が、土砂の浚渫と、浚渫土砂を用いた通路の造成を提案。
- ・多面的機能支払交付金を活用し、ため池の周囲に管理用通路を造成して、草刈り等の維持管理負担を軽減。
- ・土地改良区から選任された水番員（現在は多面組織代表者）が、日常操作を実施。
- ・多面組織が草刈りを実施。

■取組の効果

- ・ため池の周囲に通路が造成されたことにより、草刈りのみならず、日常点検が効率化され、用水の安定供給や防災・減災に寄与。
- ・古くから農業用水確保に苦勞してきた地元集落にとって、愛着のある新開堤が今後も持続的に機能を発揮できるよう、多面組織で下支え。

活動状況



草が繁茂したため池の土手
(土手の左側が貯水池)



管理用通路が造成されたため池の土手 5

アメリカザリガニ防除の環境学習を通じた生態系保全

経緯・きっかけ

- 外来種であるアメリカザリガニの繁殖拡大により、水草の減少や水質の悪化が発生。
- ため池は冬季に融雪用水の水源池として利用されており、長期間の池干しが困難。
- このため、8月に、小学生を対象とした外来種防除イベントを開催するとともに、9月には落水による外来種駆除を実施。

活動主体の概要

- NPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海（石川県珠洲市）
（奥能登で持続可能な地域づくりに取り組む団体。大学と連携した環境保全活動、体験交流に係る企画立案等多様な活動を実施。）

ため池の諸元

名称： <small>かめんたいけ</small> 亀ヶ谷池（防災重点農業用ため池）	
所在地：石川県珠洲市野々江町	
所有者：野々江共有	堤高：5.7m
管理者：野々江管理区（水利組合）	堤頂長：109m
受益面積：43ha	総貯水量：105千m ³



保全・管理の取組内容

■取組の体制と内容

- ・小学生を対象に、アメリカザリガニなどの外来種の防除体験を8月に実施。
- ・9月には、外来種の駆除を目的に水抜きを実施。その際、外来種及び希少生物の流失防止のため、排水口にザルを被せる等の工夫を行い、徐々に落水。
- ・堤体法面や堤体周辺の草刈りを年1回程度実施。
- ・ため池施設の定期的な点検を実施。
- ・降雨前の事前放流、降雨前後の見回りを実施。

■取組の効果

- ・活動を通じてアメリカザリガニの個体数が減少したことにより、水草の減少や水質悪化を防止。
- ・小学生が防除体験に参加することで、家族をはじめとした地域住民によるため池管理への理解が増進。

取組状況



仕掛けたワナを引き上げる小学生

アメリカザリガニ防除体験参加者募集

日 時：2023年8月19日（土） 午前9:00～11:30ごろ
 集合場所：珠洲市亀ヶ谷団地（野々江公園裏）
 実施場所：野々江亀ヶ谷池（野外体験）、珠洲市民図書館（中学）
 参加費：ひとり100円（保険代含む）
 対象者：小学3年生以上（小2以下の弟妹が同行の場合、保護者【中学生以上可】の同伴が必要）

定 員：約20名
 ※8月12日（土）午前中、亀ヶ谷池でアメリカザリガニ捕獲用のワナを仕掛けます。これについても、参加ご希望の方はご連絡下さい。

自然豊かな珠洲市のため池。でも一部のため池には水草や水中の生き物がいなくなりアメリカザリガニが住んでおり、そこでは、環境に大きな影響を与えています。この体験を通して、自分たちが暮らす地域の自然の素晴らしさ、アメリカザリガニの怖さを学んでみませんか？※アメリカザリガニは北アメリカ原産で、元々日本にはいなかった生き物（外来種）です。

体験する
仕掛けたワナからアメリカザリガニを捕まえてよ！ワナには、ほかに、どんな生き物がかかっているのかな？

学ぶ
生き物や資料を使って、アメリカザリガニが住んでいる水辺ではどんな影響があるのか、わたしたちがどんなことが出来るのか学びます。

味わう
捕まえたアメリカザリガニを食べてみよう！カニの味？カニの卵？エビの味？どんな味？

防除体験募集の案内

ため池と農村公園の保全を通じた地域住民との交流

経緯・きっかけ

- 水路やため池等の農業用施設は農家組合等で維持管理を行っていたが、日当が出せず労力確保に苦勞。
- 農業者が減少していく中、受益者だけでため池の日常点検や維持管理をしていくのが困難な状況。
- 平成18年に県営事業によりため池及びその周辺にビオトープ等の農村公園が整備されたことをきっかけに、地域が一体となった地域づくりや施設管理を行うため、多面的機能支払交付金の取組を開始。

多面組織の概要

組織名称：田治きらめきの里協議会
(福井県福井市)
活動面積：92ha (田：92ha)
対象施設：水路22.5km、農道4.1km、
ため池1か所等
構成員：農業者、自治会、土地改良区
主な活動：生き物調査、清掃活動等

活動状況



ため池の
生き物調査



農村公園の
清掃活動



田治きらめきの里案内看板

保全・管理の取組内容

■取組の体制と内容

- ・地域の農家組合でため池を維持管理していたが、自治会へ多面的機能支払交付金の参加を声がけし、地域ぐるみによるため池管理体制を整備。
- ・農村公園の維持管理を地域全体で協力して行うため、土地改良区が中心となって自治会、農家組合、用水組合に声をかけ、説明会を開催。
- ・県営事業が完了したことを契機に5つの自治会と土地改良区等で活動組織を設立し、取組を開始。
- ・自治会に活動への参加を依頼し、地域の非農業者の参加による、ため池の草刈りや土砂の堆積状況調査、ため池周辺の環境維持活動を実施。
- ・ため池と併せ整備された農村公園では、女性の会（いいざあうらの会）による景観植栽等を実施。
- ・ため池への関心を深めてもらうため、地域の子供たちとため池生き物調査を実施。

■取組の効果

- ・多面的機能支払の活動を通じて、地域ぐるみの維持管理体制を構築し、受益者のみならず、多くの地域住民が参加してため池や農村公園の維持管理を実施。
- ・活動に対して日当を支払うことができるようになり、活動への参加者が増加したことにより労力を確保。
- ・土砂の堆積状況調査などきめ細やかな管理が可能に。
- ・地域が一体となり取り組んだことで、地域住民の交流の場として農村公園が有効活用。（田治きらめきの里の名称が定着し親しまれている）
- ・ため池への農道や農村公園が、「槇山を育てる会」（地元団体）が主催するウォークラリーのコースにも入っており、地域外の方が訪れることで、保全管理活動を実施するモチベーションアップ。

都市部ため池周辺の住民・小学校と連携した保全

経緯・きっかけ

- 都市化によるため池周辺環境の変化により、周辺住民から除草を求める苦情が出た。
- 農業者が減少し、農業者だけではため池の保全が困難な状況。
- 地域住民のため池への関心が低かった。
- 本協議会は平成19年度に設立され、多面的機能支払交付金の前身である農地・水・環境保全向上対策による取組を実施。

多面組織の概要

組織名称：中之番ため池協議会
(兵庫県明石市)

活動面積：20.5ha (田：19.7ha、畑：0.8ha)

対象施設：水路14.61km、農道1.5km、
ため池7か所

構成員：水利組合、農会、自治会

主な活動：農業体験、野鳥観察会、清掃活動等

保全・管理の取組内容

■取組の体制と内容

- ・ため池周辺の都市化が進行するなか、ため池の役割や自然について知ってもらい、将来の担い手を確保するため、平成21年頃から小学校の先生と協議を重ね、小学生の田植え、稲刈りなど農業体験やかいぼり※体験を実践。
- ・非農業者と共生する地域づくりのため、活動組織の構成員や地域住民にチラシを配布し、クリーンキャンペーンや野鳥観察会などの活動を展開。

※かいぼり：ため池の水を抜き堆積した土砂を取り除く管理作業

■取組の効果

- ・植栽活動に30人、クリーンキャンペーンに200人、野鳥観察会に50人が参加し、地域住民等のため池等の役割や保全に係る理解が増進。
- ・農業体験、かいぼり体験に小学生100人が参加。ため池等の役割や保全に係る理解が深まり、次世代への意識が醸成。

取組状況



ため池での野鳥観察会



ため池クリーンキャンペーン



小学生かいぼり体験

ため池をきっかけとした地域の活性化

経緯・きっかけ

- ため池等の管理は農業者が実施してきたが、都市化や高齢化により参加者が減少し、負担が困難に。
- かいぼり※等も実施していたが、地域の非農家の関心は低く、参加者は少人数。
- 施設の老朽化も進行する中で、活動の資金が不足し、補修ができない状態であった。
- 市の助言により、多面的機能支払交付金をため池のゲート補修費や日当などの活動費に充当し、非農家も巻き込んだ地域ぐるみの活動を平成19年度から開始。

※かいぼり：ため池の水を抜き堆積した土砂を取り除く管理作業

多面組織の概要

組織名称：富木地区環境保全協議会
(兵庫県加古川市)

活動面積：9.7ha (田：9.5ha、畑：0.2ha)

対象施設：水路4.1km、農道1.5km、ため池2か所

構成員：農業者、土地改良区、自治会、子供会等

主な活動：草刈り、泥上げ、植栽、水路補修等

保全・管理の取組内容

■取組の体制と内容

- ・活動の広報を行うことで、地域住民へ取組内容を幅広く周知することができるようになり、非農業者の参画につなぐ。
- ・多面組織が中心となり、非農家や大学生も参加するかいぼりを毎年開催。
- ・毎年実施しているかいぼりでは、捕獲した魚の実食体験等を通じて、家族連れ等の非農家の参画の促進。
- ・ため池における地域や学校の環境学習会や清掃活動等、様々なイベントを開催。
- ・地域農業の保全に資する活動について、近隣の活動組織や大学生との意見交換会を実施し、それらの活動をネット、町内掲示、回覧で広報。

■取組の効果

- ・かいぼりは地元小学生が70人も参加した年もあるなど、地域住民も参加する大きな行事となり、地元の新聞で掲載。
- ・他の活動組織と交流会を実施することで各々の組織で抱える課題を共有し、かいぼり等イベントの地域住民の参加拡大やため池管理の効率化。
- ・地域の魅力発見を目的に、活動に参加する大学生と地域の将来像について意見交換を実施。
- ・活動が新聞等のメディアに取り上げられることにより、地域住民の参加意欲が向上。

活動状況



ため池周囲の草刈り



幼稚園での環境学習



大学生との意見交換

中間管理機構との連携の推進

経緯・きっかけ

- 農業者の高齢化や減少から、耕作放棄地の発生防止や地域資源の保全に係る負担軽減を求める要望が増大。
- 核家族化の進行や非農業者率が高まったことにより、地域内のコミュニケーションが希薄化し、地域資源の保全や農村文化の継承に支障をきたす状況に。
- 農地・水保全管理支払交付金から多面的機能支払交付金への移行を契機に、市、活動組織、農事組合法人が話し合いを実施した結果、農地中間管理機構を活用し、個人利用の農地を農事組合法人に集積し、一集落一農場方式とすることで合意。

多面組織の概要

組織名称：宮前ため池協議会
(兵庫県加古川市)
活動面積：33ha (田：33ha、畑：0.4ha)
対象施設：開水路12.0km、農道1.4km、ため池3か所
構成員：農業者、町内会、農事組合、土地改良区、少年団等
主な活動：ため池の泥上げ、田んぼダム

保全・管理の取組内容

■ 取組の体制と内容

- ・町内会の広報等を通じて、ため池の泥上げ等への参加を非農業者に呼びかけ。
- ・全域で田んぼダムに取り組み、水田の雨水貯留機能を高め、大雨による浸水発生を抑制。

■ 取組の効果

- ・泥上げ等の保全活動に参加することで非農業者の関心が高まり、地域ぐるみの管理保全体制が定着。

取組状況



ため池のかいぼり



田んぼダムのための堰板

ため池の保全管理と一体となった農振農用地区域外における取組

経緯・きっかけ

- 昭和44年にほ場整備事業が行われたが、現在区域内の水路は老朽化が進行。
- 農家数の減少・高齢化が進み、水利組合によって水路の泥上げや草刈り、補修等の保全管理を十分に行うことが困難。

多面組織の概要

- 取組主体：阿弥陀地区地域資源保全会（兵庫県高砂市）
- 受益面積：106ha（田：105ha、畑1ha）
- 対象施設：開水路53.0km、ため池21か所
- 構成員：農業者、非農業者
- 主な活動：草刈り、ゴミ拾い、外来種駆除等

活動状況



草刈り、ゴミ拾い等



地域住民による外来種駆除

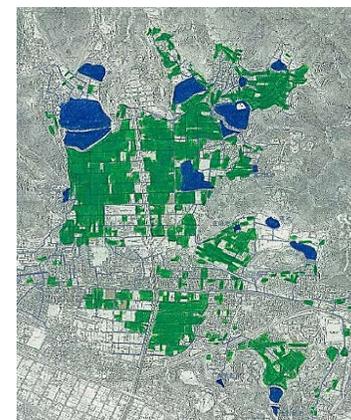
保全・管理の取組内容

■地域の状況

- ・兵庫県は、「ため池の保全等に関する条例」に基づくため池整備構想を策定し、「農業用水供給能力や治水能力が高い、安全なため池」「自然に触れられる快適なため池」等を目標に、ため池やその周辺整備、地域住民参加による管理等を推進。
- ・本地区は、21か所のため池を水源とし、水田地帯が市街化調整区域に広がる。
- ・知事特認により、高砂市内で同構想に基づき保全管理を行う受益農地を農地維持支払交付金の対象農地に設定。
- ・地区内のため池は、5つのため池協議会により、水路は、9つの水利組合により、別々に保全管理されてきた。
- ・平成26年度より、ため池協議会及び水利組合に、地域の農会（農業者の集まり）を加え、活動組織を設立し、21か所のため池及び地区内の水路の一体的な保全管理を開始。

■取組の効果

- ・共同活動により、ため池の機能が維持された。
- ・農振農用地外でも、多面的機能支払交付金を活用して、ため池の維持・管理ができた。



農業者と漁業者のかいぼり活動による里海の保全

経緯・きっかけ

- 地域の農業者は、高齢化や人口減少によりため池管理に苦勞。一方、漁業者は、海の栄養塩不足による海苔の色落ち問題に直面。
- これらの課題解決に向け、双方が連携し、山から流れ出たため池に堆積した土砂と栄養分を海に流す「かいぼり※」を復活。
- 「淡路東浦ため池・里海交流保全協議会」を設立し、淡路島でかいぼり活動を推進中。

※かいぼり：ため池の水を抜き堆積した土砂を取り除く管理作業

活動主体の概要

淡路東浦ため池・里海交流保全協議会（兵庫県淡路市）

- ・構成団体：水利組合、漁協
- ・参加人数：約100名（農業者、漁業者、行政、地元企業、小中学生、高校生等）
- ・活動内容：かいぼりの実施、指導
- ・活動予算：かいぼり復活支援事業(県単) 他

ため池の諸元

※令和5年にかいぼりを実施したため池のうちの一か所

名称：地蔵堂上池（防災重点農業用ため池）		
所在地：淡路市釜口		
所有者及び管理者：地蔵堂田主	堤高:3m	
受益面積:1ha	総貯水量:1.0千m ³	堤頂長:50m



保全・管理の取組内容

■取組の体制と内容

- ・農業者と漁業者が、共同でかいぼりを実施。
- ・かいぼりは、淡路東浦ため池・里海交流保全協議会が主催。
- ・日常管理は水利組合が行っており、草刈りは年2回実施。
- ・兵庫県ため池保全サポートセンターはポンプ等の資材貸出、県・淡路市は活動助成や活動参加により取組を支援。
- ・水利組合の組織・区域が多面的機能支払交付金の活動組織・区域と異なることから、協議会としては同交付金を活用していない。

■取組の効果

- ・ため池に堆積した栄養分を海に流すことで、海苔の養殖に良い影響を及ぼした。
- ・堆積土砂の減少により、ため池の貯水量回復。また浚渫土の農地還元により、地力が増進。
- ・多様な団体が参加することで、ため池の役割について地域の理解が増進。

活動状況



消防ポンプを利用したかいぼりの状況



浚渫土の一部を農地に還元

リモコン式草刈機の導入による管理保全の効率化と安全確保

経緯・きっかけ

- ため池の管理を担う多面組織では、構成員が高齢化するとともに、農業者は減少傾向。
- ため池法面における草刈りについて、これまで以上に安全かつ効率的に実施する必要。
- 多面的機能支払交付金を活用してリモコン式草刈機をリースしたことで、安全性の確保と作業の効率化を実現。

多面組織の概要

組織名称：アグリカルチャー^{うきた}浮田
 活動面積：149ha
 対象施設：水路50.8km、農道23.3km、
 ため池24か所
 構成員：農家（880戸）、非農家（352戸）、
 町内会、婦人会、老人会、消防団
 主な活動：ため池等の草刈り、農業体験等

ため池の諸元

<small>たにじりしもいけ</small> 名称：谷尻下池（防災重点農業用ため池）	
所在地：岡山県岡山市東区谷尻	
所有者：岡山市	
管理者：町内会	
受益面積：9.4ha	
堤高：7.1m	
堤頂長：113m	
総貯水量：9.4千m ³	

保全・管理の取組内容

■取組の体制と内容

- ・ため池24か所を保全対象として、各町内会活動との連携を図り、地域ぐるみで草刈りや樋門、サイホンの維持管理を実施。
- ・農業者がリモコン式草刈機を活用し、ため池堤体法面や堤体周辺の草刈りを実施。（年2回程度）
- ・ため池管理者が、多面組織とともに年1回ため池施設の点検や、降雨時前後のため池の見回りを実施。
- ・日常の管理や草刈りは多面組織が実施。
- ・多面組織ではできない工事箇所の点検、簡易な施設補修等はため池管理者が実施。
- ・ため池管理者でも対応できないような規模の大きな補修等は岡山市が対応。
- ・若者らがリモコン式草刈りに興味を持つことにより、活動参加の機会を創出。

■取組の効果

- ・リモコン式草刈機化の導入により誰でも安全に草刈りが可能となり、継続的な管理保全に寄与。

活動状況



ため池堤体の草刈り



リモコン式草刈機の操作状況

ため池の水位調整等による防災・減災対策

経緯・きっかけ

- 本地域は、水稻を主体とする地域で、人口減少や高齢化により農業者が急速に減少している。
- 水源であるため池は、管理をする組合員が減少し、一人当たりの作業負担が大きくなっていった。
- 堤体には、雑草・雑木が茂り、豪雨によって雑木の倒壊も発生し、堤体に亀裂等が生じて決壊をする危険性もあった。

多面組織の概要

組織名称：鎌迫池水利保全の会
(岡山県井原市)

活動面積：11ha (田：10ha、畑：1ha)

対象施設：開水路3.5km、農道1.4km、
ため池1か所

構成員：農業者、自治会、子供会等

主な活動：ため池周辺の草刈り、機能診断等

保全・管理の取組内容

■取組の体制と内容

- ・以前は約10名の組合員でため池等の管理を担っていたが、多面的機能支払の活動に位置付けることで管理体制が非農業者を含む約30人に強化され、一人当たりの作業負担が軽減するとともに、きめ細やかな管理が可能に。
- ・定期的にため池周辺の草刈りや泥上げを行うとともに、ため池の点検や機能診断を実施し、必要に応じて補修等も実施。
- ・台風期前に、常時満水位よりもため池の水位を下げる低水位管理を実施することで、ため池の貯留効果を高め、洪水や二次災害等の発生を防止。
- ・活動組織の構成員以外の住民に対し、定例会議の地元説明会でため池の現状を伝えるとともに、豪雨等によるため池決壊の危険性について、啓発・普及。

■取組の効果

- ・活動を通じて、地域全体で農業用施設を守り、防災・減災に取り組もうという意識が向上。
- ・平成27年度に時間雨量30mmを超える降雨を記録したが、農地被害等の発生はなかった。

活動状況



機能診断の様子



水位調整の様子

ため池での作業安全対策

経緯・きっかけ

- ため池数が多いことに加え、農業者の減少により、維持管理や労力の確保に苦勞。
- 農業者の高齢化に伴い作業時の安全対策が課題に。
- 自治会ごとに「道直し」という地域住民総出で農道の修繕を行う行事があったが、舗装率の向上もあり、近年は行われなくなったことで集落のコミュニティ機能が低下。

多面組織の概要

組織名称：香南地区自然保護組合
(香川県高松市)

活動面積：368ha (田314ha、畑54ha)

対象施設：開水路36km、農道30km、
ため池34か所

構成員：農業者、自治会、土地改良区等

主な活動：ため池の草刈り、農道の補修作等

保全・管理の取組内容

■取組の体制と内容

- ・集会での声かけやチラシでの案内をこまめに行い、非農業者を含む労力を確保し、ため池の草刈りや池干しを実施。
- ・ため池法面の形状確保、雑草繁茂の抑制のため、カバープランツを植栽。
- ・急な斜面でも安全に草刈り活動が実施できるように、非農業者を含む活動組織内の構成員による資源向上支払(共同)で、ため池の堤防に小段(足場)を直営施工で設置。
- ・安全対策の一環として、ため池周辺に危険を知らせる看板を設置。
- ・さらに、非農業者にも声をかけ、農道の補修作業や景観形成活動を実施。

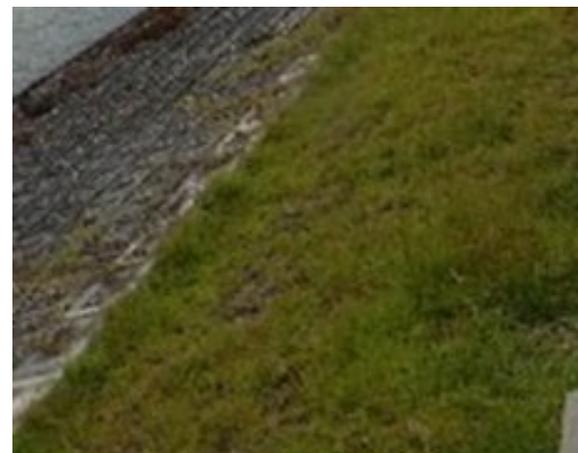
■取組の効果

- ・非農業者への積極的な声かけやチラシでの案内で活動の参加を促し、労力の確保につないだ。
- ・カバープランツの植栽により、草刈りの省力化。
- ・ため池に足を運ぶ回数が増えたことで損傷箇所を早期発見することができた
- ・ため池の堤防への小段の設置やため池周辺への看板の設置等、安全対策に取り組むことによる、組織内での作業の安全に対する意識の向上。
- ・非農業者も生活道として農道を利用しており、多面的機能支払の活動へ理解が得やすかった。

活動状況



ため池法面での小段設置



法面のカバープランツ

地域住民が参加しやすいため池の管理保全活動による防災・減災対策の取組

経緯・きっかけ

- 本地区は、宮崎県の中心部に位置する都市的地域で、稲作主体の水田地帯。
- 本制度により、法面や付帯施設の点検を目的とした年1回の池干しに合わせて、ウナギのつかみ取り大会を実施するなど、地域住民も参加しやすい仕組みを導入。

多面組織の概要

組織名称：元気な美しい里新名爪
※住吉地区広域みどり会運営委員会
協定組織(R6～)

所在地：宮崎県宮崎市

活動面積：71ha（田：41ha、畑：29ha）

対象施設：開水路14.3km、パイプライン

16.1km、農道5.8km、ため池4か所

構成員：農業者、自治会、子供会、消防団等

主な活動：日常点検、ウナギのつかみ取り等

保全・管理の取組内容

■取組の体制と内容

- ・消防団と連携して、年に1回のため池の池干しを行い、法面や付帯施設の点検を実施。
- ・回覧板や市等からチラシを配布し、池干しに合わせてウナギを放流して、つかみ取り大会を実施することで、地域住民の交流の場を創出し、以前は農業者が中心だった池干しに地域住民も多数参加。
- ・宮崎市の農業用ため池危機管理マニュアルに沿った連絡体制を整え、大雨前後のため池の巡回、水位の調整を実施。
- ・地域住民の参加による農業用施設における定期的な清掃活動や景観形成のための植栽等を実施。

■取組の効果

- ・共同活動により、ため池の機能が維持。
- ・効率的な排泥が促進される等、農業者の負担が軽減されるとともに、ため池の存在意識の高まりにより、地域住民の防災・減災の意識が向上。
- ・定期的な清掃活動や植栽により良好な景観が形成され、地域住民に憩いや安らぎの場が提供されるとともに、農村環境の保全への関心が向上。

活動状況



ウナギのつかみ取り大会



消防団と連携した点検